



No. 3

ならぬことはならぬもの ～会津藩の幼年教育の基本から～

校長 宮 居 伝

猪子山活動や音楽集会などの全校行事、また、各学年の取組などで、子どもたちの頑張りと活躍がたくさん見られた6月でした。まずは、子どもたちに大きな拍手を送りたいと思います。

そして、早いもので1学期もまとめの時期、7月を迎えました。高温多湿で体調管理が難しい時期ですが、子どもたちが睡眠や食事をしっかりととれるよう、保護者のみなさま共々、健康管理についてどうかよろしく願いいたします。

ところで、ある小冊子に、次のようなことが書かれてありましたので紹介します。

だからといって『何でもあり』でよいのでしょうか！

我が家の隣に、4歳と2歳の子どもがいる4人家族が住んでいます。日曜日に時々、父親が子どもを叱る大きな声が聞こえてきます。「なんで。なんでだめなの！」「だめなものはだめ」この若い父親の叱り方から、会津藩の幼年教育の基本「ならぬことはならぬもの」を思い出しました。

人権と自由が認められ、個性が尊重され、自分なりの発想や表現、行動が認められることは素晴らしいことであり、今後もそう在り続けて欲しいと思います。しかし、だからといって『何でもあり』でよいのでしょうか。

考えさせられる内容です。

学校では「道徳」の時間に、次のようなことを大切に発達段階を踏まえ指導しています。

〈小学校〉

- *低学年「人間として してはならないことはしないこと」
- *中学年「集団や社会のきまりを守り 協力して助け合う」
- *高学年「相手の立場を理解し支え合う態度」「集団における役割と責任を果たす」

〈中学校〉「自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身につける」

小学校では、「人間が、人間として生きていくために、してはならないことがある。それは、絶対にしてはならない」ということで共通しています。

中学校では、さらに「自分の将来の生き方やしたいことを考えて判断したり行動したりできるようにする」もので、小学校の基礎の上にたって、さらに高い道徳的価値を中学生に求めています。

小学生の「してはならないことはしない。やるべきことは必ずやる」という段階から、中学生は「したほうがよいこともできる。自分だけの都合ではなく、みんながうまくいくように考えたり行動したりできる」段階へ自分を進化させるということです。

保護者や地域の皆様には、子どもたちが、このような成長ができるように気をかけ、時には声をかけるなど、引き続き、ご理解とご協力を、よろしくお願いいたします。

ある方の思い出

「だめなことはだめ」と言ってくれる
地域のこわいおじさんやおばさん…
やっぱりいてほしいものです！

私は子どもの頃に、よく地域のお宮さんやお寺の境内で、やわらかいボールで野球をして遊びました。そんな時、近くに住んでおられたおじさんに、よく怒られたことを、今でも思い出します。普通に野球をして遊んでいる時は黙っておられるのですが、つつい羽目を外したり、大切なお寺のかべにボールをあてたりすると、それはそれは…。

でも、遊びたい私たちですから「これ以上したら怒られる」を、自然と身につけ、また、下級生の子どもたちにも、そのことを伝えながら、ずっと、お宮さんやお寺の境内で遊んでいたのを記憶しています。

いつもは物静かでも「だめなことはだめ！」と言ってくれる、教えてくださる地域のこわいおじさんやおばさん… やっぱりいてほしいものです！

不思議なものです。私が成人してからでも、この方に地域でふとお会いすると、何故か、気持ちが引き締まったのを、今でも思い出します。このこわいおじさんは、もう他界されていますが、このことは、地域で同級生が集まる機会があると、友達も「同じ気持ちになった」と、よく話題になっていました。



校区を展望（猪子山活動）



音楽集会